

◆表紙の紹介◆

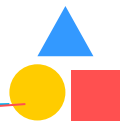
「秋田で考える SDGs」

2月16日に遊学舎において、「秋田で考えるSDGs」が開催されました。第1部では、新田英理子氏（一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク事務局長代行）による「SDGs基礎知識について」、第2部では話題提供2団体の情報提供がありました。また、SDGsのワークショップを参加者全員で行い、様々な協働を生み出すチャンスの可能性を検討しました。

◆目次◆

- P2 活動ウォッチング CSR 株式会社ヤマダフーズ
- P3 活動ウォッチング 「雪かき体験交流会」に参加して
「県外出身者交流会」開催報告
- P4 平成30年度横手市男女共同参画フェスティバル、健康体操
- P5 平成30年度「元気なふるさと秋田づくり」顕彰事業
- P6 助成金情報





CSRの取り組み

「期待」は、新たな挑戦のタネ
～身近な関係者のニーズを活かし、
ビジョンの達成へ～

ヤマダフーズがCSRを推進

納豆や豆腐などを製造販売する株式会社ヤマダフーズが、社内にCSR担当を設置しました。「とはいえ、まだ具体的な行動に移せているわけではありません。弊社が実現したい社会(ビジョン)や、社会の中での弊社の役割(ミッション、企業理念)を幹部社員とともに再度見つめ直すことから始めています」と社長の山田伸祐さんは言います。



昨年12月、経済産業省より「地域未来牽引企業」に選定された。「がんばっていかないと」と語る山田社長。

これまで同社では、CSR活動として、工場見学の受け入れや地域の清掃活動、地域のイベントやスポーツチームへの協賛などを行ってきました。これらの取り組みは、地元企業として地域住民から求められていることに

応えていこうという主旨のものですが、同時に同社へ愛着を持つファンの拡大や従業員の成長という経営的効果も生まれている取り組みであるということです。



工場見学を訪れた小学生からの手紙。「これを読むと、がんばろうという気持ちになるんです」と山田社長は言う。

関係者の声をもとにした改善・開発

関係者の期待に応えようという姿勢は、地域社会に限るものではありません。「弊社では問屋さんを通じて病院や介護施設、保育園に商品を納入しますが、実際に製品を料理したり召し上がったりしてくれる人の声を直接聞く機会がありませんでした。顧客や取引先のご要望を伺う機会を作ることが必要だと考えました」と山田さん。3年ほど前から製品を利用している病院や保育園に栄養士資格を持った社員が

DATA_団体情報

株式会社ヤマダフーズ

代表取締役社長 山田 伸祐

美郷町野荒町字街道の上 279 番地

TEL 0182-37-2246

FAX 0182-37-2276

訪問し、使いづらさや改善点がないか聞き取りを行っています。

この取り組みを通じて、身体状態によって補う必要のある栄養が違ったり食べやすい形状が異なることが改めて分かったと言います。これがきっかけとな



保育園を訪問し、食育活動も行っている。

って、介護食向けのペースト状納豆を開発。2018年3月、日本食糧新聞社が主催した「第4回介護食品(スマイルケア食)コンクール」の「かまなくてもよい食品部門」において審査委員長賞を受賞しました。「ご高齢の方が、介護が必要になっても大好きな納豆を食べられるようにしたい」と山田さんは語ります。

また、「子どもの離乳食として選ばれやすい納豆をもっと使いやすくできないか」という取引先からの相談を受け、子どもの味覚や1食当たりの消費量に合わせたペースト状の納豆を開発中とのこと。「個別ニーズに応えられる製品が市場になれば、必要としている方と一緒に考えていきたい」と言います。

企業理念とビジョンを達成するために

創業から65年。社員と会社の将来像を話し合う中で、大豆の可能性を引き出し、乳幼児から高齢者まで様々な方を笑顔にしていこうという方向性が導き出されたそうです。また、それを担う従業員も笑顔にすることが必要だという考えも確認されました。「従業員向けには評価制度の導入の他、階層別研修や資格取得支援を行っていますが、課題もあります。社員こそ弊社のファンになってもらえるよう、働きやすい環境を作っていきたい」とのこと。

目指す企業像、社会像に近づくために、ヤマダフーズの挑戦は続きます。(奥ちひろ)

「雪かき体験交流会」に参加して

平成31年2月9日に開催された「雪かき体験交流会」に参加した横手高校定時制の鈴木美菜さんにインタビューしました。インタビュー内容は「横手かまからFM」で2月25日放送されました（再放送は3月25日）。

Q) 雪かきの手伝いをやっていますか？

A) なかなか学校生活があるので、作業できる時間がありませんが時間があれば手伝うようにしています。

Q) 今回、雪かき体験をしての感想はいかがですか？

A) 雪を見たこともない参加者の人と作業できたことがある意味新鮮な感じを受けました。その方々が雪を楽しんでいた場所に一緒にいたことが貴重な体験だったと思います。

Q) 雪かきの道具と雪の硬さは、どうでした？

A) 穴あきのスコップを初めて見たので、使い方と壊れないかと心配しながら使ったら、軽くて使いやすかった。ただ、雪が硬くて重く雪を崩して運ぶのが大変でした。

Q) 地元の料理をごちそうしていただきました。

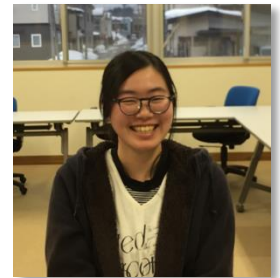
A) 家では、めったに食べることができない納豆汁が非常に美味しかったです。また、漬物がおいしかった。家でも食べるが、場所によって味が違うなあと感じました。

Q) 次回も参加してみたいですか？

A) 参加したいです。いろいろな人とのコミュニケーションをとることができて、自分にはない考え方を知ることができたので、楽しかったです。

Q) 最後に共助の説明を聞いてどうでしたか？

A) 共助の仕組み自体を知らなかったもので、説明してもらったことで、新しいことを知ることができて参加してよかったです。またこのような機会があれば、参加したいと思いました。



笑顔の鈴木美菜さん

県外出身者交流会（増田の蔵見学）

県外から横手に来て暮らす皆さんが集い、思うままに語り合う交流会を開催しております。

結婚、転勤、移住などで、秋田県外から横手に来て現在横手市に暮らす方々の交流会を秋田県南NPOセンターが開催しています。月一回のペースで、横手についての情報交換を行っています。交流会の参加者と出かけることで、家族や友だちと行くのとは違い、今まで知らなかったことがわかり、地域がこんな風になればもっとよいのではといった提案も出てくるのではという意見が聞かれました。そこで、今回は「増田の蔵見学」を中心に普段とは違う目線での街歩きを行いました。移動手段は、公共交通機関のバスを使用しました。車の運転では見過ごしてしまう風景を楽しむことができ、参加者同士の話も盛り上がりました。蔵見学、延命地藏など参加者の提案で予定外のスポットに寄ってみたり、ゆっくりと増田の街歩きができた一日

でした。次回は、穴場の花見会などの提案が出ています。



平成 30 年度横手市男女共同参画フェスティバル



横手市主催、秋田県南部男女共同参画センター共催による「横手市男女共同参画フェスティバル」が平成31年3月2日に、横手市交流センターY2ぷらざにおいて開催されました。「一人ひとりが輝き、自分らしく生きられるまち」をめざして」をテーマに、男女参画を少しでも多くの方に周知するために毎年行われています。

オープニングは「混声合唱団横手フィオレンテ」によるステキな歌声6曲が会場内を包みました。「時間の有効活用と女性活躍」を株式会社プレステージ・インターナショナル鈴木真由美さんより講演・事例紹介をいただきました。バリトン伊藤さんと横手かまくらFMパーソナリティ伊藤弘子さんによる「男女共生トークショー」では、バリトン伊藤さんのプライベートなお話の中からは、性別に捉われない生き方・考え方に共感する部分もあり多様な学びの機会となりました。横手市職員×当センター職員による「対話劇-参

画で、介護も仕事も諦めない」も披露されました。



混声合唱団横手フィオレンテ
による合唱



鈴木真由美さんによる講演・事例紹介



「男女共生トークショー」
の様子



「対話劇」の様子

健康体操（健康寿命を延ばしイキイキ生活を送りましょう）

平成30年度団体・グループ等の活動支援のための研修会

南部男女共同参画センターは平成31年3月8日(金)に「健康体操～健康寿命を延ばしイキイキ生活を送りましょう～」を開催しました。オリジナルスマイル主宰・日本体育協会認定スポーツリーダーの小山田聖子さんを講師にお迎えし、24名(男性2名)が参加しました。

イスを使用しながら、普段使わない筋肉をほぐしたりすることで、日常生活で無理なく家庭でも続けられる簡単なエクササイズを学びました。体操を通じて笑顔になることで、ココロとカラダも健康になることを教えていただきました。心地よい汗を

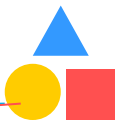


講師の
小山田聖子さん

かいた研修会になり、家庭でも続けていきたいものです。



声を出しながら、「健康体操」を楽しむ様子



平成30年度仙北・平鹿・雄勝地域振興局では、地域に住む人たちの自主的・主体的な地域活動をしている団体・個人に対しての表彰が行われました。

平成30年度「元気なふるさと秋田づくり」表彰（平成31年2月25日） — 仙北地域振興局

◆太田町民謡同好会

正しい民謡の継承と普及だけでなく、民謡を通じて地域の活性化を図っています。

◆大曲商工会議所南部地区協議会

「まちを元気にしたい」という思いから、角間川・藤木地区を中心にまちづくりや賑わいづくり活動を行っています。

◆北小屋ボランティア

子ども達が自然に触れ、学び、豊かな人間性を育むことができる学習の場を守るため、水環境保全活動に取り組んでいます。

◆コミュニティ・デザイン・ミサト

地域や世代の垣根を越えて、自分たちのできるまちづくり、ひとづくりを目指すため活動しています。

◆島川 祥様

地域課題の解決を目指し、地域これからの担う子ども

達の成長を支える仕組みについて考えて活動しています。

◆大仙自然保護の会

近年の自然環境悪化の改善を目指し、その保護に関する調査や研究を行い、生物のすみよい豊かな自然を育むことを目指し活動しています。

◆にしせん未来塾

西仙北地域の未来を語り考え、地域情報を発信するなど新たな企画で地域を元気にして後世へ伝えたい思いで活動しています。

◆ミニ APP

地域を元気にするために「子どもによる、子どものためのまちづくり」を目指して活動しています。

詳細：<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/40302>

平成30年度「元気なふるさと秋田づくり」表彰（平成31年2月19日） — 平鹿地域振興局

◆十文字和紙工房

伝統の和紙作りを継承し、紙の用途だけでなく、アクセサリー等の商品を開発や展示販売など、広く情報発信をしています。

◆堀江茂壽様

福祉施設などでハーモニカ演奏、交通安全の注意喚起等を参加者の年代に合わせた活動をしています。

◆朗読グループあおぞら

戦争や核兵器の悲惨さを若い世代や子どもたちに伝え、平和への意識を高めることを目的に朗読劇を披露する活動しています。

詳細：<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/40144>

平成30年度「元気なふるさと雄湯郷づくり県民運動」表彰 — 雄勝地域振興局

◆内町・御屋敷町内会（平成30年12月6日表彰）

内町・御屋敷町内会は、それぞれに町内会長がいますが、隣り合っている地区ということもあり、手を取り合い一緒に活動をしています。住民一人ひとりが「自分に出来ることは何か」を考え、互いに出来ることを出来る範囲で助け合いながら活動を行っています。

◆田代村体験協議会（平成30年12月11日表彰）

協議会では、田代地区の住民を中心に、地域資源を利用した田舎暮らし体験活動を行っています。都会の子供たちへの貴重な経験を提供していることで、地域が活気づけられています。

詳細：<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/18917>

◆助成金情報◆

2019年度 青少年スポーツ振興に関する助成金

青少年スポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、または自ら行い、かつ3年以上継続して活動している特定非営利活動法人等の団体を対象とします（詳細参照）。

募集期限：2019年6月20日（木）

助成金額：1件あたりの上限額 100万円

詳細：<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>

問合せ先：公益財団法人

ヨネックススポーツ振興財団 事務局

TEL：03-3839-7195



第17回 ドコモ市民活動団体助成事業

豊かで健全な社会の実現に向けて、全国の市民活動を支援。子どもの健全な育成を支援する活動、経済的困難を抱える子どもを支援する活動を対象とする。

募集期限：2019年3月31日（日）

助成金額：総額 3,500万円（上限）

詳細：<http://www.mcfund.or.jp/jyosei/2018/no16/>

問合せ先：NPO法人

モバイル・コミュニケーション・ファンド(MCF)事務局

TEL：03-3509-7651



平成31年度街なか再生助成金

街なかにおける市街地整備や街なかの再生に資する取り組みを行う民間団体を資金面で助成し、その事業等の活動を支援することで、賑わいのあるまちづくりを促進する。

募集期間：2019年3月31日（日）

助成金：1件あたり 100万円

詳細：<https://www.sokusin.or.jp/town/subsidy.html>

問合せ先：公益財団法人

区画整理促進機構 街なか再生全国支援センター

TEL：03-3230-8477



JM基金 公益財団法人 公益推進協会

「JM基金」では、子どもの心と体の健やかな成長を願い、子ども社会に格差ない「平等の機会」を支援することを目的で作られた。子どもたちに無料で食事提供している団体に対しての活動に支援する。

応募期限：2019年4月8日（月）

助成金額：1件あたり、30万円以内

詳細：<https://kosuikyo.com/3145>

問合せ先：公益推進協会 JM基金事務局

TEL：03-5425-4201



第36回老後を豊かにする ボランティア活動資金助成事業

高齢者を主な対象として活動するボランティアグループおよび地域共生社会の実現につながる活動を行っている活動において継続的に使用する用具・機器類の取得資金を助成。

募集期間：2019年5月24日（金）

詳細：<http://www.mizuho-ewf.or.jp/appli1.html>

助成金：1件あたり上限 10万円

問合せ先：みずほ教育福祉財団 福祉事業部

TEL：03-3596-4532



活動資金調達をお考えのNPO法人・市民活動団体向けの助成金情報です。

申請書の書き方等の相談を受け付けております。

ご相談（0182-33-7002）ください。

休館日（木曜日）

編集スタッフの VOL.10
つぶやき

情報誌編集担当

熊谷 淳子

今年度もいろいろなイベント、研修会に参加しました。参加するたびに、好奇心旺盛な私は、充実した時間を持って学ぶことがたくさんありました。また、他地域の方との密度の濃い話ができる機会をも得ることができました。得た情報は、活動につながりを持ってもらうためのツールとして、大いに活用できたと思います。今年度一年は、イベントを利用した「おせっかいな仲人」になったあと自分を感じるこの頃です。

秋田県ボランティア・NPO活動ニュース県南版

ハンサン 2019年3月10日発行
3月号 VOL.140

発行：秋田県あきた未来創造部地域の元気創造課

〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1 TEL.018-860-1245

編集：特定非営利活動法人秋田県南 NPOセンター
(南部市民活動サポートセンター)

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

南部市民活動サポートセンター

【相談受付】月・火・水・金 9:00~18:00 土 9:00~17:00

【休館日】木曜日・年末年始(12/29~1/3)

〒013-0046 横手市神明町1-9

TEL.0182-33-7002 FAX.0182-33-7038

E-mail: ssc7002@luck.ocn.ne.jp

<http://www.kennannpo.org/project/supportcenter.html>

